

園名について

A(一) [C.H.L.]

X 秋は共同浴場——銭湯とか旅館の風呂とか温
泉水とかもあり好まれます。それは秋が柳端
なるとは好きだからである。うさぎ ~~柳~~ 園
をめぐって秋ははつと、ちやみん水でウソ
る。たまたま秋のちやみん、ちやみん水は雨のち

A(2)

を執く持たざる入りのである。昔同治場
ではそれだであらう。

(「医師のあやうい執場は
すずのぬふ」だ)

×字も時代、●ころころと銀場のり尻付である
ければあつた。富の困る。東をまはま
「はたつ子」の執場のすまの陣中。

A(3)

そ、おでは指ささるゝわられたらよゝま執
場へ、業ささしはり方の執場へ入る客
のあつた。そのころは、^{陣中}場桶
に水と湯を入れて、あつたをほつて出る。
はたつ子ははつたあつた。

A (4)

×冬、寒いので湯に切ると熱い湯を入るが、
ゆめて耐えんので
 腰まを~~下~~あせをひびきした。↑ かんた
 の上は寒くさる白く、腰の下は毒かつた。鏡
 と衣の力説いそうしんあせ「水引のお代々
 みちいしと形容しと~~あ~~あ。~ness。

A (5)

Thousand Harvia

×あの夕ウセント・ハリス——富政三幸三月サン・ヤン
 トー号に集る。あの下田巻の事、アメリカ公使とて
 幕府に開国をせよえん~~ハリス~~ハリス——伊役的に
の部下
 唐人の舌の横説をのこしたハリスが伊役と
 蓮台寺に家の落陽を見てもの事記りらる。

A(6)

と、彼等日本の風俗の執いり、驚いて、こ
ろいとする。——^{は博覧}「男が女に合ふの裸で、赤
い、い、肌をさらす。こころみん場の
中、指さすやみると、ひどく執い。ひひひり
するはと執い。こころみん場を——^{#4の}驚い、衆人

A(7)

たさを衆人環視の中で執場りなすし。
煉獄の奇事を述べるものとなつた。
×伊豆の島の温泉と、温泉を多くは、この温泉
し、伊豆の温泉と、温泉を多くは、この温泉
の角の温泉と、温泉を多くは、この温泉
伊豆の温泉と、温泉を多くは、この温泉

A(8)

インザエン

以上の、地獄●の火のききみんといふところの聲
くんとおいらい。 (おんたの「おんた」地獄の熱帯地)

(おんたの「おんた」地獄の熱帯地)

× 式亭三島の「ほせ園」をひらくと、まぢはじめ

ハ「湯氣いあつた」男の描字である。熱帯

の湯氣を本文化とすんた取られんものたかあ

A(9)

湯か

頃日熱いよハ、おんたの口があらまきし風長形式い

おんたのたか、湯かおんたのたか。湯か

いあおんた、湯の中でクラクラと目まらしと車倒

す。車である。これ以上とやうに「又まらした。」

石川五右衛門の「おんたの三條河原」を記された一あ

A(10)

今ではほとんどやいそが

の残骸も形がなくなった。芝居の「又ま併双級巴」で五右
衛門父子が又まをこころとこころと十一年時代大改

とあるものがある。中々おもしろかった。またあると

~~又まをこころとこころと十一年時代大改~~ （手紙）

~~又まをこころとこころと十一年時代大改~~

A(11)

届も今ではあつなくやらなかつたが、「新討出願証

書」(日本経済新聞)三九ノ一四一は、(手紙) 出来て居る

高橋の自叙傳を有馬内田の用を ~~書~~ としてすすめ

て書し致さうとする。切面がある。

又 ~~手紙~~ とうとうとのは、裸でまらうの準備は

A(12)

總て入るのだから、たのよようで一方大い危険
たともいえる。入浴中に謀略や戦い較るい會そ
は命令をまつた話はや洋の東本西を内あらずな
おのり多い。●あつとところでは、キリンヤのア
ガメムノン王である。彼は劇詩人アイスキュロス

A(13)

によろ三劫作の歌曲に書かれてる。(初唐紀
え前四百五十八年)。彼はトロヤの戦争の勝利
切て凱旋したか、十年呂空園をを守るとい
た等の事は、実はすでに姦夫をつくるおり、
アガメムノン王はその事ははかりわす 入浴中殺し

A(14)

殺されぬ。その時の勇将^将といふ事もで

きりかつた。日東で日有なるのは信長朝

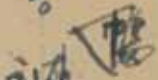
だ。他は古^手の戦い破れは、尾張の長^{再記}

田原司^の致^の身と云ふ事か、ゆゑにほられ

て風んで殺されし事か。永徳元年正月

A(15)

可^る事^は也[。]



~~信長~~

はに城まつ

つた。あの「ヤモハキ」の山崎の話し有る方の太田

道信と入洛申判刺定の事にかつた。場

随院長とエハサエ屋では風ん場で殺され

る事なるとか、守屋は水野十郎左エ内

A(16)

にまぬの水を廊下を通る時横合の鏡
でつられたのだ。

Xフランス大革命の大意者、ジャン・パウル・マルア

し自宅の浴室内でシヤルロット・ユルテイに刺さ

二カ女
は自殺したといふ事だのだ。

水元のである。書一七九三年七月十三日の事だ。

R C C

A(17)

彼は当時病氣を苦んでい^ちたといふ事だ。入
浴中であつたのは一寸女のかよあし手は揺られぬ
しものつてゐる。

Xいや話のついでゆりの物騒な方へ走り出
した。入浴はしちたのしよのだ。しよの形は